

寺報

No.619

平成31年3月

蓮華寺
發行

御聖訓

さもやおぼえ候事は、我等が心の内に父をあなずり、母をおろそかにする人は、地獄その人の心の内に候。



『おもんすどのにようほうごへんじ
重須殿女房御返事』

(解説)

仏教の目指す最高の位は、仏様になる事であり、また最低の位とは地獄に落ちる事であります。では、これらは一体どこに存在するものなのでしょうか。

一般的な教えでは、地獄は我々が住むこの地の下にあり、仏様の住む浄土は遥かかなたの西方にあるとされています。

しかし、日蓮大聖人はこの教えを否定し、どちらもかけ離れた他所にあるのではなく、この我々の心の中にありとお説きになりました。

特に両親を軽蔑したり、粗末に扱う者がいるならば、地獄はその心の中に存在し、その者は仏になる資格はないと教えます。

つまり、我々には慈愛に満ちた仏の心もあるし、また怒りの気持ちも現わす地獄の心も共に内在しているという事でもあります。

ですから、我々は法華経・お題目を唱える事によって、常に地獄の心を抑え、仏様の心を出せるようにしていかなければならないのです。

精進しましょう。

『春彼岸会』『星祭』

十八日(月)・二十一日(木)・二十四日(日)

水 行・・・昼十二時半

大本堂前

法 要・・・午後一時

大本堂

法 話・・・約十分間

番	十八日	加藤上人
当	二十一日	對馬上人
話	二十四日	住職上人
法		



②『春彼岸会』と『星祭』の法要は三日間ですが、先祖供養は、残り四日間『朝のお勤め』の中で読み上げさせて戴きますので、ご安心下さい。なお、合わせて星(劍守札)もご祈祷します。

法要次第

- 一、勸 請 (導師が唱えます)
- 一、開 經 偈 (無上甚深微妙の)
- 一、お 經 (漢字読み)

序品第一〜方便品第二〜如来寿量品第十六
 【自我偈】〜如来神力品第二十一〜觀世音菩薩普門品第二十五〜咒陀羅

- 一、御 祈 禱 (法樂加持)
- 一、御 妙 判 (如説修行鈔)
- 一、お 題 目 (南無妙法蓮華經)
- 一、宝 塔 偈 (此經難持)
- 一、星 祭 祈 願 (導師が唱えます)
- 一、お 經 (自我偈・漢字読み)
- 一、お 題 目 (南無妙法蓮華經・僧侶は供養の読上)
- 一、彼 岸 回 向 (導師が唱えます)
- 一、四 誓 (衆生無辺誓願度)
- 一、お 題 目 三 唱

【法 話・・・約十分間】

以上

③ご祈祷のお経は速く読みますので、ご了承下さい。

お寺からのお知らせ

***先祖供養(一週間)・・・八百円**

お彼岸の先祖供養は、お彼岸前に申し込みますと、一週間、またその後に申し込んだものでも、「彼岸明け」まで供養を続けさせて戴きます。どうか、ご供養は出来るだけ、お彼岸前日迄にお申し込み下さい。

***追 膳(一週間)・・・三千五百円**

お彼岸の追膳は『位牌堂』、三階『永代供養堂』、また、お預かりの『お骨』に一週間上がりませす。

「彼岸入り」以降のお申し込みも受け付けますが、期間中、一日だけという〈特定の日〉の受付はしておりませんので、ご了承下さい。また、追膳は数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。

***劍 守 札(星)【一体・二百円】**

④星(劍守札)のお申し込みは、専用の申込書にお名前と性別・生年月日をお書きの上、お早目にお申し込み下さい。なお、宗派は問いません。

「星」(劍守札)を 申し込みましょう!

当山では『星祭』の期間中、一週間、皆様のご家族のお名前と性別・数え年を記入しました「星」(劍守札)をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散し、一年間無事安泰でありますようにと祈願します。

その為に、大荒行・壹百日間の修行を終えました僧侶が、十八日の彼岸の入り・二十一日の中日・二十四日の明けの三日間、水行をし心身を清めてから、ご祈祷をします。

「星」はいわゆる「日曜星」土曜星」の七曜星に、太陽と月をさえぎる「羅喉星」、彗星である「計都星」を加えました『九曜星』を、皆様の年令と性別によって配当していきます。

それで、我々はその年の自分の運勢を知り、これをも元に行動し、更に法華経・お題目の信仰を持つ事によって、より一層安心した人生を送れるのです。

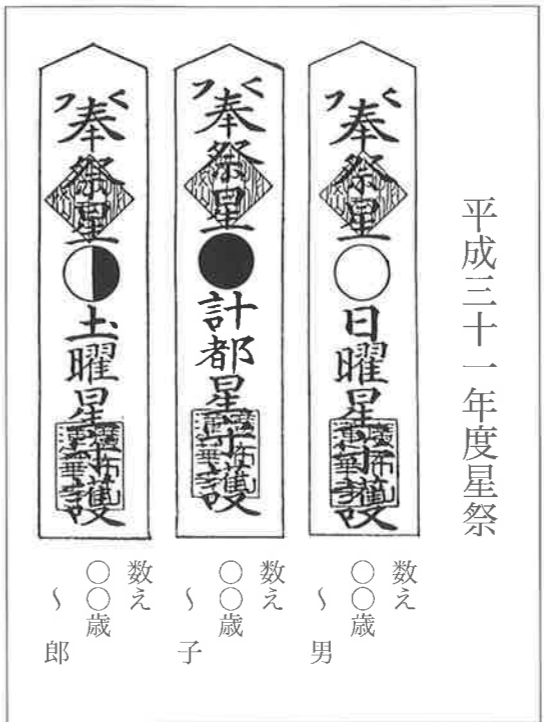
どうか、檀信徒の皆様は是非とも毎年この「星」(劍守札)をお申し込みになりますように願います。また、新規のお申し込みもよろしく願います。

星（劍守札）のまつり方

お寺より「星」を戴きましたら、そのままにして置かないで、必ず厚紙に貼り、各自の数え年と名前を書き、自宅の御寶前か仏壇の下の方にお祀りして、毎朝拝むようにして下さい。

また、昔より仏間のカモイに張る家庭もあります。とにかく、一年間大事にお祀りする事が大事です。

平成三十一年度星祭



※なお、五枚まで貼れる専用の台紙も、五十円で事務所にて販売しております。

三月十三日（水）

午後一時より

場所…大本堂

会繁涅槃尊釈



*お釈迦様がお亡くなりになられました、祥月命日の日です。

*十三日講のお勤めの中で、一緒に執り行います。

*お供物をお受けします。

現代に生きづく 日蓮聖人の教え



蓮華寺檀信徒総代・護持会副会長

山谷清文

(青森県議会副議長)

「民衆の苦悩を取り除き、より良い社会を作りたい」という一心から、日蓮聖人は法華経の教えを広めました。それからおよそ八百年の時を経た現代においても、その教えは強く私たちの心の中に生きづいています。

再来年は日蓮聖人の生誕八百年を迎えますが、日蓮聖人が活動した鎌倉時代の社会状況と言え、大地震や大雨などの度重なる自然災害や長引く争乱、さらには二度にわたる外国（蒙古）からの侵攻などにより、国は疲弊し混乱を極めていました。

このように書いていますと、わが国においてここ数年の間、全国的に猛威を振るった大雨や台風、北海道から九州まで各地で頻発した大地震、さらにわが国と

近隣諸国との緊張した情勢は、鎌倉時代の状況に似ている点が多く見受けられます。

日蓮聖人は当時の混迷する社会の中で、人々の苦しみを取り除き、社会全体が幸せになることを願い、人々が今をイキイキと生きることの大切さを説き、法華経への信仰にその生涯を捧げました。その過程においては多くの迫害や苦難も伴いましたが、強い信念を持ってこの教えを日本全国に広めました。まさに命がけの難行苦行でありました。

全国で、日蓮聖人が説いたお釈迦様の功德が集約された『お題目』の世界は、多くの人たちの心の拠り所となっています。今に生きる全ての人たちが、この教えを理解し実践することができれば、争いのない平和な社会が作られると信じています。

私もこの世に生を受け健康で日々を過ごし、そしてやりがいのある仕事を与えていただいていることに感謝しながら、日蓮宗の宗門徒として法華経と『南無妙法蓮華経』のお題目を唱えています。そしてふるさと「発展と安全安心な社会づくりを目標に、これからも感謝の気持ちを忘れずに、一日一日をイキイキと暮らしてまいりたいと思っています。」

三月の行事

- 一 日(金) 盛運祈願会 午後一時より
- ・お守り【靈神符】の交換の日です。
- ・自ら進んでお勤めに参加し、お経を唱えましょう。
- ・聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・蓮華寺檀信徒の方は、必ず【靈神符】をお持ち下さるようお願い致します。



四 日(月) 鬼子母神小祭 朝のお勤め中

十三日(水) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より

- ・お経 如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)
- 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
- ・皆様も日蓮大聖人さまの御報恩を忘れずに参拝し一緒にお経・お題目を唱えましょう。

十三日(水) 釈尊涅槃会 午後一時より

『春彼岸会』・『星祭』【三日間】

- 十八日(月)・二十一日(木)・二十四日(日)
- 【水行】 昼〇時半より
- 【法要】 午後一時より
- 二十八日(木) 甲子きのえね【大黒様の日】 朝のお勤め中

☆奉仕のお知らせ

- 十五日(金) 星祭の準備 男女共・午前十時より
- *星祭の祭壇、水行等の準備
- 十八日(月)【彼岸入り】 男女共・午前十時より
- 二十一日(木)【彼岸中日】 男女共・午前十時より
- 二十四日(日)【彼岸明け】 男女共・午前十時より
- ②『春彼岸会・星祭』の行事は三日間ですので、ご奉仕とご参拝は日程・時間をお確かめの上、お願い致します。
- また「水行」のお手伝いは、人手が沢山必要ですので、一日でも多くご奉仕下さい。
- 特に二十四日(日)は星祭のお札を渡す日ですので是非ともご協力をよろしくお願い致します。

☆『春彼岸会の追膳』

十八日(月)〜二十四日(日)まで一週間
 『お彼岸の追膳』のお手伝いは一週間、朝【午前六時〜七時半頃迄】夕【午後三時〜五時頃迄】です。でお手伝い出来ます方は時間までご集合下さい。
 ②お手伝い希望の方は、教宣部員以外でも歓迎しますので、どうぞ時間までご集合下さい。

- ◎奉仕部長 山田兼補 ◎伝道部長 小野正春
- ◎教宣部長 杉淵昌三

☆『永代供養塔』のご供養

境内に安置しています『永代供養塔』『水子観音像』『動物供養塔』の(彼岸供養)は、三月二十一日(木)の午前十時三十分より、住職上人がご回向しますので、ご一緒に参拝出来る方は、時間までにお越し下さい。
 時間は約三十分くらいです。

☆今月まで、檀信徒研修会
 はお休みとなります。

「寒修行」終了す

本年、一月六日から二月二日までの二十八日間に渡り行われました「寒修行」は、皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。
 今年は予想に反し、大雪とまではいきませんでした。反面寒さは非常に厳しく、参拝者には正に寒中の修行となりました。
 それでも、多くの皆さんが頑張つて参加してくれました。

本来、修行とは誰の為でもなく、自分の為に行うものですが、その僧俗一体となり一心に修行しているお姿は、正に異体同心、ご本仏様そのもののお姿でした。
 どうか来年度からは、いまだ参加した事のない方々も「寒修行」に参加してみてください。

まず、何よりも実行してみる事が大切です。
 なお、今般も法務ご多忙の中、導師を勤めてくれました住職・加藤・對馬・埴・加藤曉宏の各上人に於かれましては、誠に有り難うございました。
 また、参加された皆様も、どうもご修行ご苦勞様でした。

『春彼岸会』 『星 祭』

三月

十八日（月）・二十一日（木）

二十四日（日）の三日間

水 行・・・昼十二時半より 大本堂前



法 要・・・午後一時より 大本堂

法 話・・・約十分間 法要終了後

(先祖供養、追膳、星【剣守札】は受付中)

* 『水行』『法要』は彼岸の入り・中日・明けの三日間ですので、檀信徒の皆様もご注意の上、ご参拝下さい。なお、ご供養は残り四日間「朝のお勤め」の中で御回向します。